

# 「市政 ここが聞きたい」

## 一般質問

一般質問とは

議員が執行機関に対し、市政運営全般に対して質問を行うことです。

質問内容

議案とは関係なく議員が自由に決めて、事前に通告しています。

制限時間

質問と答弁を合わせて、一人 60 分以内です。

一般質問動画配信



1	富永 明美 (ネットワーク佐賀)	○自転車のヘルメット着用推進に向けて ▶市職員の労働環境について
2	黒田 利人 (緑補自民)	○公共施設の木造化の推進と木造建築工事業 の後継者育成の施策について ▶校区公民館の在り方について ▶投票率アップのための施策について
3	川崎 健二 (自民さが)	○公園・学校の遊具の充実について ▶子どもたちをスマートフォン等の弊害から 守るには ▶ナガエツルノゲイトウ等の特定外来生物の 駆除を
4	松永 憲明 (ネットワーク佐賀)	○学校給食の無償化の取組について ▶「子どもの権利条例」制定について
5	福井 章司 (自民政進会)	○交通局について ▶人口減少問題について
6	川副 龍之介 (自民さが)	○令和6年能登半島地震を踏まえ、本市の地 震への対応と対策について
7	重松 徹 (自民清流)	○SAGA2024国スポ・全障スポに向け た市の対応について
8	中島 妙子 (公明党)	○子育て世帯への包括的な支援について ▶認知症を発症しても安心して暮らせる社会 づくりについて ▶災害時における性的少数者への配慮につ いて
9	堤 正之 (自民政進会)	○佐賀市の観光戦略について ▶姉妹都市などとの交流再開について
10	永淵 史孝 (自民政進会)	○ネーミングライツについて ▶SAGA2024国スポ・全障スポにつ いて ▶こどもまんなか応援サポーターについて ▶佐賀駅周辺整備について
11	中村 宏志 (公明党)	○佐賀市立図書館について ▶佐賀市営住宅について
12	野中 宣明 (公明党)	○はり・きゅう・あんまなどの助成制度につ いて ▶市の組織機構改編について ▶水害対策について

13	山田 誠一郎 (ネットワーク佐賀)	○教育行政について ▶干潟よか公園及びひがさすの周辺整備につ いて
14	江口 善己 (ネットワーク佐賀)	○民生委員・児童委員の活動について ▶ノリ生産量日本一奪還のための水産業振興 について
15	村岡 卓 (公明党)	○孤独・孤立対策への支援について ▶放課後児童クラブについて
16	御厨 洋行 (自民清流)	○神野公園再整備計画について ▶子育て支援について
17	諸富 八千代 (自民政進会)	○公共施設等総合管理計画について ▶脱炭素政策の見える化について
18	江原 新子 (自民さが)	○市営バス運転士の人材確保について ▶制度改正後のふるさと納税の状況について
19	嘉村 弘和 (自民政進会)	○佐賀市における脱炭素の取組について ▶清掃工場の焼却炉改修について
20	稲葉 嵩広 (自民さが)	○小学校給食の無償化について ▶本市の公金の運用について
21	江頭 弘美 (自民さが)	○蓮池のまちづくりの拠点（蓮池公園）づく りについて
22	西岡 真一 (自民清流)	○九州新幹線西九州ルートについて ▶老人クラブへの支援について ▶防災対策について
23	山下 明子 (市民共同)	○市民が利用しやすい市有施設に～ミュージ カル県SAGAプロジェクトを踏まえて ▶佐賀空港への自衛隊・オスプレイ配備計画 について、市長の見解を問う ▶佐賀市立図書館をより身近に、より利用し やすくするために ▶公共交通施策をめぐる市の対応について
24	川原田 裕明 (緑補自民)	○市長の市政運営・政治姿勢を問う

番号は、質問順、( )内は党派名・準党派名、掲載は大項目のみです。○がついている項目は、次ページ以降に詳細を掲載しています。



# 自転車でもヘルメットをかぶろう！

(ネットワーク佐賀)  
とみなが あけみ  
**富永 明美**



1

**問** 令和5年4月から自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化された。しかしまだまだ着用している人は少ない状況である。①本市の着用率と対策は②特に高校生の未着用が見受けられるが対策は③中学生のヘルメットを自由に選択できるようにならないか。

**答** ①昨年7月時点で県内の着用率は23・4%。交通安全教室や出前講座での周知に加え、街頭キャンペーンや交差点での指導、動画の配信などさまざまな手法で啓発に努めている②定期的に行っている街頭指導の活動場所や指導方法の見直しを図るとともに、マナーアップモデル校との連携にも積極的に取り組むたい③ヘルメットの指定は各学校の裁量によるが、その議論に生徒が関わり、選択できるようになることで卒業後の着用につながるのであれば、見直す意義が増すと考える。



ヘルメットは命を守ります



# 市木造建築物に墨つけ手加工法を！

(緑楠自民)  
くろだ としと  
**黒田 利人**



2

**問** 木造建築物を建てる方法は、昔からの墨つけ手加工とプレカット加工がある。市発注の小規模建築物工事に二つの工法を選択制として採用したがすべてプレカット加工で行われた。技術継承の観点から、墨つけ手加工で建てるのが望ましいと思うが、市の考えは。

**答** 令和4年度から市発注の一部の小規模木造建築物工事について、請負業者が工場加工するプレカット加工か伝統的工法である墨つけ手加工のどちらかを選択できるようにし、墨つけ手加工の機会提供を行っている。実際に墨つけ手加工を採用した工事はまだないが、文化財の修復工事などで欠かせない技術であり、将来墨つけ手加工で施工した工事が出てくるよう選択制を導入した発注は引き続き行っていきたい。



市発注の小規模木造建築物



# 公園や学校の遊具の充実を

(自民さが)  
かわさき けんじ  
**川崎 健二**



3

**問** ①教育委員会は遊具の教育的効果をどのように考えているか②学校では安全点検をどうしているか③修繕などの予算はどのようになっているか④専門的知識を持った者による点検が必要では⑤全小学校を俯瞰した偏りのない整備をすべきでは。

**答** ①児童が遊びながら運動能力を高め、協調性を養えるなどの効果があると認識している②教職員による月1回の点検及び日常点検を基本として、一部の学校では業者による点検を実施③遊具の軽微な修繕は各学校で対応。大型遊具などは教育委員会で対応④必要性は認識している。今後、経費を試算した上で検討したい⑤学校ごとに遊具への要望内容もさまざまであり、基準を設けて一律に設置するのではなく、学校の意見を尊重しながら設置したい。

都市公園に比べ小学校は  
遊具の新設・更新が極端に少ない

施設数	遊具総数	平均	5年間の 新設・更新数
都市公園	40	281	7.0 約 50
小学校	35	188	5.4 6

小学校は29年でやっと一つ  
新設・更新される計算



# 学校給食の無償化を！！

(ネットワーク佐賀)  
まつなが けんめい  
**松永 憲明**



4

**問** ①給食の食材の地産地消の実情は②給食実施校での食育の実施状況は③無償化している佐賀市と同規模自治体の実情は④保護者の負担軽減、出生数拡大、移住者拡大を図り、人口減少に歯止めをかけるために小学校給食を先行して無償化できないか。

**答** ①米は全て市産、牛乳及びパンに使用する小麦は全て県産と、地元食材の使用に努めている。県産食材の利用割合は約43%②地元農産物へ興味を深めてもらうため献立に郷土料理を取り入れたり、子どもたちが栽培した野菜を給食に使用する取り組みを行っているほか、給食委員会の児童・生徒による残食チェックなど子どもたち自らも取り組んでいる③人口25万人前後の規模では3市が実施または実施予定④継続的に年間約6億円の費用が発生し、市単独の予算措置は難しい。



全国学校給食甲子園第3位！  
富士学校給食センター



## 交通局は人員拡充に全力をあげよ！

(自民政進会)

ふくい しやうじ  
福井 章司



5



2024年問題や路線廃止など  
交通局の課題解決を急げ

**問** ①交通局は2024年問題をどう認識しているか②その場合の人員不足対策はどうするか③女性運転士の雇用対策は④西鉄バスの江見線廃止について交通局はどう捉えるか⑤江見線廃止による市民の交通手段確保のため、市はどう対応するか。

**答** ①時間外労働に対する制限が強まり、運転士不足は一層厳しさが増すと認識している②人材募集サイトの利用をはじめ、自衛隊をターゲットとした募集などさまざまな取り組みを行っている③女性用の休憩室やトイレの設置など、職場環境の向上を図っている④深刻な運転士不足によるものと聞いており、苦渋の決断であったと考える⑤利用実態の把握のため、沿線市町と連携して乗降調査、利用者へのヒアリングを行った。このデータをもとに県や沿線市町ともに対応を協議する。



## 本市の地震への対応と対策

(自民さが)

かわそえ りゅうのすけ  
川副 龍之介



6



日頃から防災意識を高めよう

**問** ①佐賀平野北縁断層帯による地震災害はどのような想定をしているのか②水不足の対応として浄水器の完備や防災井戸の整備が必要では③仮設住宅やごみ回収場の設置に対する方針や条件はあるのか④「私道」や「水道の私管」の被害に対する支援策はあるのか。

**答** ①県の調査では、最大震度7、マグニチュード7.5の地震により甚大な被害が発生すると想定②浄水器を16台備え、1台1時間あたり最大1.8Lの飲料水・生活用水を供給可。民有の井戸の公的な指定や防災井戸の新設は考えていない③仮設住宅は二次災害の危険のない公有地から選定。ごみの回収は国の指針を踏まえた上で、被災地区近辺に仮置場を設置する④原則、所有者での管理となるが、私道は条件により助成制度の活用が可能。私管は大規模災害時には上下水道局で対応する。



## SAGA2024 国スポ・全障スポ

(自民清流)

しげまつ とおる  
重松 徹



7



本市おもてなしコンセプトは「応援」

**問** 昭和51年に佐賀県で開催された「若楠国体」では「民宿」がレガシー（遺産）として引き継がれた。SAGA2024国スポ・全障スポもレガシーとして何か残り、次世代に継ぐことが大事と考えるが、坂井市長に国スポ・全障スポへの意気込みを問う。

**答** SAGA2024国スポ・全障スポは、国体が国スポに生まれ変わるという新しい大会であり、競技を「する」「観る」「支える」全ての人が楽しむことができる大会となるよう、全庁一丸となって準備を進めていく。また、まち全体で応援やお迎えをすることで、佐賀市のファンやリピーターの増加につなげていくほか、全ての世代の市民が生涯、日常的にスポーツを楽しむことができる新しい時代のスポーツを生かしたまちづくりを行い、地域の活力につなげていきたい。



## 市民に寄りそった子育て支援を！

(公明党)

なかしま たえこ  
中島 妙子



8



子どもの成長を社会全体で後押し！（写真はイメージ）

**問** ①これまでの縦割り行政を解消し、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへの一体的な相談支援機能を有する「こども家庭センター」の設置について、本市としてどのように検討されているのか②本市の訪問家事支援はどのような内容か。

**答** ①現在、「こども家庭センター」が担うべき業務を健康づくり課とこども家庭課で調整している。今回の児童福祉法等の改正で令和8年度までにセンターの設置が求められるが、市民に分かりやすい組織で子ども政策を一元的に行う体制として、令和7年4月の設置を目指している②支援内容は大きく二つ、一つは食事の準備等を行う家事支援、もう一つはおむつ替え等の育児支援。家庭の状況に応じてこれらの支援を行い、不安等の対応や子育て支援の情報提供を行う。



## インバウンドへの観光戦略見直しを！



**問** インバウンド（海外観光客）誘致について①市の誘致策は②インフルエンサーの活用状況は③市のホームページは訴求力が弱い。情報発信力の強化を④佐賀ならではの旅行プランの構築は⑤観光戦略プランを見直すべきでは。

**答** ①平成29年から観光PR動画をターゲットの国や地域に配信しており、コンテンツの磨き上げや情報発信に力を入れた②海外から3名のインフルエンサーを招き、佐賀市の魅力を発信してもらった③写真や記事の内容を追加で掲載し、コンテンツの充実を考えている④バルーンを活用したイベントの開催や新しい体験型商品を考えている⑤観光誘客を戦略的に進めることは重要であり、調査を継続して効果的なプロモーションにつなげたい。



外国人観光客はコロナ前の9割に回復（写真はイメージ）



## 当市でもネーミングライツ導入を！



**問** ①ネーミングライツ導入に関するサウンディング型市場調査後の応募等の現状を聞く②応募に至らなかったという結果を、市はどのように分析しているのか③諦めるには早く、代替策はまだあると考えるが、市はどのように考えているのか。

**答** ①募集期間中に具体的な調査内容の問い合わせはあったが、応募には至らなかった。現在は他都市事例の収集を行っている②制度づくりの協力企業を募集したが、企業側としては命名料や期間等を判断できる内容を望んでいたのではないかと考えた、公募としたため、結果的には、受け身の姿勢となったことも影響したのではないかと考える③命名料や期間などを具体的に検討するとともに、経済団体や企業等にこちらから協力を依頼するなど能動的な調査手法を考えている。



当市もできる！  
ネーミングライツ



## 図書館本館大規模改修に市の特色を



**問** 開館後約28年経過による施設の老朽化や来館者数の減少傾向等の課題があり、本館大規模改修が予定されているが①その内容と範囲は②隣接する呉施設との関係性は③国内外の事例を参考に比較検討して議論を重ねるべきでは④佐賀市の特色を反映するべきでは。

**答** ①公園のように過ごせる図書館を目指して、いろいろな体験を通じてリアルな本への興味、関心を促す。さまざまな椅子を配置し「椅子とベンチの図書館」をシンボルとしたい。図書館本館が対象だが、屋外と一体となった空間づくりを機能強化の一つとする②図書館と親和性の高いアバンセと連携し、エリアの持つポテンシャルを最大限に生かす③先進事例を調査し、これらを参考に策定委員会等で議論を繰り返している④市産木材や地場産業の諸富家具等を活用し郷土色も出したい。



30周年記念と図書館本館大規模改修が予定されている



## はり・きゅう・あんまの助成拡充へ



**問** 市として利用者の裾野を広げ、より多くの方に利用していただくよう努めていくのであれば、施術1回当たりの助成金額と助成回数上限を増やすべきである。より良い制度となるよう、助成内容を見直す時期に来ていると思うがどうか。

**答** 過去3年間の助成制度の実績では、制度利用者の平均利用回数が約6回で、4割以上の方が全く利用しておらず、上限回数24回を全て利用した方は1割未満であった。ただ、この3年間は新型コロナウイルス感染症の影響があったと考えられるため、通常期の利用状況を注視する必要がある。また、来年度から、制度利用者の声を聞く等の情報収集を開始し、利用実績や広報の効果等を踏まえ、助成内容の見直しの必要性について判断していく。



はり・きゅう・あんま制度の積極的な周知を！

※2ネーミングライツ…施設に企業名や商品名などを冠した愛称を命名する権利を付与するもの。  
※3サウンディング型市場調査…事業発案段階や事業化検討段階において、事業内容や事業スキーム等に関して、直接の対話により民間事業者の意見や新たな事業提案の把握等を行うことで、対象事業の検討を進展させるための情報収集を目的とした手法。

## 佐賀市学校教育の現状と課題を問う



中学生にとって部活動は大きな存在。理想的なあり方は

**問** ①特別支援学級の充実に向けての施策は②佐賀市南部に特別支援学校を設置すべきでは③教育長の部活動への思いは④地域の受け皿は確保できるのか⑤新年度に向け、教育長の意気込みを問う。

**答** ①学校生活支援員等の配置、また学級担任等への研修で指導力向上を図っている②周辺市町と連携し、県に働きかけたい③文化やスポーツに親しむ機会の保障、社会性の育成など意義は大きい、長時間練習の弊害や少子化による活動存続の問題などもあり、活動量と内容の見直しが必要④スポーツに関わる各団体と意見交換を行いながら、受け皿確保に努めたい⑤未来を担う子どもたちが新しい時代を生き抜く力を養うため、教育ビジョンを明確にし、不断の取り組みを進めたい。

## 民生委員・児童委員の活動について



民生委員・児童委員の集いで研修会等を開催

**問** 民生委員のなり手が少なく、自治会長が苦慮されている。①民生委員の定数は②1人の民生委員が担当する世帯数の規定は③担当地域の変更は可能か④民生委員を兼務している自治会長は何名か⑤民生委員の欠員を無くすため、負担軽減に向けた策は。

**答** ①本市の定数は現在545名。現員数は現在528名で、欠員が17名②県の条例では、70世帯から200世帯と規定されている③定数の増減を伴わなければ可能。自治会の単位や関係団体との関連性、担当地域の範囲など、地域ごとの状況により決められており、見直しには地区内での十分な協議が必要④2月現在で28名⑤関係機関等に、民生委員はつなぎ役ということを知り、負担の軽減を図るよう努める。また、民生委員へのアンケートにより課題を把握し、軽減策を検討する。

## 孤独・孤立に悩む若者にまなざしを

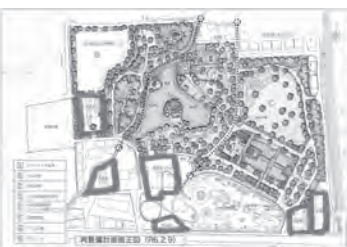


あなたはひとりじゃない  
ひとりで抱え込まないで!

**問** オーバードーズに見られる若者の薬物依存や健康被害の背景には、悩みや困りごとを吐露する相手がいない孤独・孤立の問題がある①市の現在の取り組みは②若者が相談しやすい工夫が必要では③地域や各種支援団体との連携で幅広く声を拾い上げるためには。

**答** ①専門の相談員を配置し、学校や社会復帰に向けた支援、学校生活や親子関係など悩みに対する電話・メール相談受け付けなどを行っている②さまざまな方法で相談窓口の紹介を行っているが、重篤な状況になって相談するケースも増加しており、SNS等を活用した周知方法も今後検討すべきと考えている③研修会を通じ、地域の大人に子どもたちが抱える問題を共有していただき、孤独を感じる若者が多いことを念頭に置いた活動をお願いしている。

## 神野公園の未来について考えよう!



駐車場整備が今後の課題

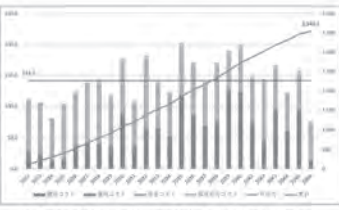
**問** ①桜の名所でありながら桜の木の老齢化が進んでいるように、新たに植樹すべきでは②安心安全のための照明灯増設と雰囲気づくりには③カブトムシ等昆虫採集ができるようクヌギなど広葉樹の植樹を考えられないか。

**答** ①桜の寿命は60年程度で、神野公園の桜も老齢化が進んでいるため平成27年度以降に70本植樹した。今後も計画的に植え替えを行う②実施設計で施設の配置や園路を計画するが、周辺への影響を考慮しながら、公園内の照度が保てるよう、また、フットライトでの雰囲気づくりも併せて考えたい③公園内の昆虫との触れ合いも必要要素。昆虫採集で人気のカブトムシが好むクヌギ等の植樹も検討したい。

※4オーバードーズ…医薬品等の決められた用量を守らずに大量・頻りに服用すること。



# 負担を将来に先送りにしないために



141.6億円<市の建物にかかるコストの1年平均額！

問 人口減少の影響で、公共施設の維持管理には大きな負担が予想される。市の計画に基づく総量の見直しが必要と考えるが①財政状況は②計画の総量10%削減目標の進捗は③今後実行への取り組みは。

答 ①公共施設等総合管理計画の改定の際に使った令和2年度と5年度の財政状況は厳しくなっている②支所庁舎の複合化等で一定の延べ床面積が削減できたものの、新たな施設整備や旧施設の未解体等により平成28年度と令和5年度の比較では3.4%増加している③今年度設置した公共施設マネジメント推進会議において情報共有し議論を深め、具体的な計画を検討したい。また施設利用者との合意形成を図り、目標に向けて取り組みを推進していきたい。



# 市営バス運転士の人材確保について



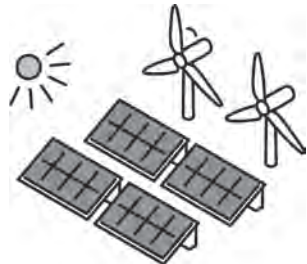
市営バス運転士 絶賛募集中！！

問 現状でも市営バス運転士は不足気味であるなかで「働き方改革関連法」適用は目前である。かねてから提案しているが、定年退職者の多くが50歳代半ばで大型免許の保有率も高い自衛隊退職者確保は、課題解決に有効と考える。退職予定自衛官への求人への取り組み状況は。

答 佐賀県自衛隊退職者就職援護協会に加入し求人活動を行っている。自衛隊では幅広い年齢層が随時退職されており、運転経験も豊富で将来のバス運転士として有望な人材がいると考える。今年度は合同企業説明会等に参加して再就職先のPRを行い、退職自衛官1名の採用が実現した。新たな取り組みとして退職予定自衛官を対象にしたインターンシップに6名の参加があり、自衛官OBの現役運転士との座談会も行った。今後さまざまな手段を講じて運転士確保に取り組む。



# 自治体新電力で地域内の経済循環を



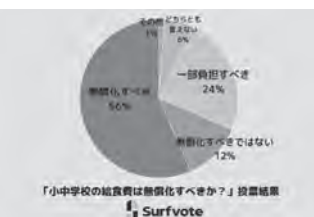
地域と共生する 再生可能エネルギー！

問 温室効果ガス削減を目的とする清掃工場ごみ発電の電気の売却先は県外の小売電力事業者であり、市内で発電した電気や電気料金が市外に流出している。この問題解決と再エネの普及拡大のために地元企業をパートナーとする自治体新電力の導入が必要では。

答 対策として地元資本による地域新電力会社をつくること、市内の電源と需要家をつなぐ仕組みになると考えられ、新電力事業の実現可能性や新電力会社の設立可能性を調査した。新電力事業は地元企業をはじめさまざまな主体とともに取り組むことが望ましく、各主体の合意形成が不可欠である。庁内及び関係者との調整を行うとともに、市内事業者等との意見交換や勉強会の機会を設け、議論を深めていきたい。現在、課題の対応策等さまざまな検討や関係者との調整を行っている。



# 小学校給食費無償化の副次的効果は



給食費の無償化を望む声は大きい

問 無償化により可処分所得が増加した場合の使途、取扱いはについては、各家庭の状況により異なると考えられ、市内経済にどの程度影響があるかを予測するのは難しい。また、無償化による人口の社会増や経済活性化は、都市の状況により差異があることから、あくまでも副次的なものではないかと捉えている。国は、少子化対策を目的として現在検討を行っており、市でも検討課題の一つとして認識しているが、国からの財政的支援がなければ実施は難しいものと考えている。

答 無償化により可処分所得が増加した場合の使途、取扱いはについては、各家庭の状況により異なると考えられ、市内経済にどの程度影響があるかを予測するのは難しい。また、無償化による人口の社会増や経済活性化は、都市の状況により差異があることから、あくまでも副次的なものではないかと捉えている。国は、少子化対策を目的として現在検討を行っており、市でも検討課題の一つとして認識しているが、国からの財政的支援がなければ実施は難しいものと考えている。



## 蓮池公園をまちづくりの拠点に！

**問** 「公園を見ると、そのまちの文化度が測れる」と言われる。蓮池公園の発想の基礎となった江戸時代の「天賜園」の石碑が8年間も放置されている現状は嘆かわしい。いま一度、150年来の歴史を踏まえ、地元住民と行政が一体となってつくり上げるべきではないか。

**答** 石碑は、熊本地震後の点検で危険な状態にあると判断し、元の場所から移して仮置きしたままになっていった。これまでの歴史等を踏まえ、設置場所を検討したい。今後は、老朽化した案内板の改修、桜の生育状態を改善するための土壌調査、割れて使用禁止となっている石橋の復旧、さびた欄干の塗り替えなどを検討している。蓮池藩の歴史を大切にし、蓮池公園を地域の拠点として捉えておられる地域の方々と共に、公園の今後について考えていきたい。



市の文化度が疑われる？ 8年間放置されている天賜園石碑



## 新幹線 佐賀市としての立場を示せ

**問** 四国や東九州で新幹線を誘致する動きが活発になってきた。西九州ルートでは、久留米分岐の南ルート案が声高である。市長は、これまでの県の考えをなぞるような答弁ばかりしているが、佐賀市にとって何が最適なのか、市としての立場を明らかにすべきでは。

**答** これまで国からは、仮にフル規格で整備する場合の3つのルート案が提示されているが、これらは国の視点で見たものであり、本市として判断するには、まだまだ材料が不足している。市民生活に大きく影響する論点が数多くあり、このような状況では、本市として判断する上での重要な要素を欠いている。どのような整備方式やルートでも、市民の利便性や本市の発展につながる事が最重要と考えており、しっかりと情報を取りながら、市としての考えを深めたい。



新幹線このままでいいのか佐賀市！



## 県民ミュージカル受け、対応を問う

**問** 今年1月のSAGAアリーナでの県民ミュージカル上演は全国でも稀有。主な練習会場のメイトプラザではホール使用と体育使用の料金格差が大きく、市民団体には負担となった。市民の文化芸術活動を支援する上で、利用しやすい対応や支援を求めるがどうか。

**答** メイトプラザ多目的ホールの、午後6時から9時まで3時間の使用料金は、ホール利用で9670円、体育利用で1750円である。使用料金については、使用目的や予約の時期で異なっており、運用に変更の予定はない。これからの文化や芸術の振興には、市民、県民の力による取り組みが必要である。市民による文化振興活動を今後もしっかりとサポートしていくとともに、活動の現場に向くなどしながら、市としてどのように寄り添い支援していくのかを考えていきたい。



県民 200 名規模の出演で成功したアリーナミュージカル



## 市長の市政運営・政治姿勢を問う

**問** ①市長が政策ビジョンに掲げる「リッチ・ローカル佐賀市」とはどのようなものか②令和5年度当初予算で掲げた政策の進捗状況は③今年度政策に取り組みできた中で見えてきた課題は。またその対策は。

**答** ①人口やGDPは減少していくが、だからこそ今後は一一人の個性や可能性、地方が持つ価値に光を当て、佐賀市独自のよさを高め、豊かな地方都市とすること②新たな取り組みとして佐賀の地勢を生かした「田んぼダム」によって大雨による浸水面積を3分の1減少できた。また、DXの取り組みで公式スーパアプリをリリースし市民目線の利便性向上に努めた③政策を進める際、賛否が分かれたり壁にぶつかるところもあるが、難しい時代だからこそ挑戦する姿勢で取り組みたい。



坂井市長の政策ビジョンは！？